

寒い冬にはガス給湯器の凍結にご注意ください

ガス給湯器には、凍結予防ヒーターが装備され、自動で機器内部の凍結予防を行うことのできる機種もありますが、この時期、特に気温の下がる夜間や早朝時には、ガス給湯器や配管内の水が凍結して、お湯が出なくなることがあります。

ご参考として、ガス給湯器の凍結予防方法等についてお知らせいたしますので、お役立てください。

凍結予防方法

ガス給湯器の給水・給湯配管に、保温材などの凍結を防止する措置が取られていない場合、風の強い日などでは気温が氷点下にならなくても、配管内が凍結してお湯が出なくなるおそれがありますので、保温材で巻くなど凍結防止の対策をお取りください。

特に冷え込みの厳しい日の凍結予防について

冬場の低温注意報発令時や特に冷え込みの厳しいときは、保温材の対策を行っても、給水・給湯配管やガス給湯器内部が凍結してしまうおそれがあります。

その際には、以下の処置を行うことで、給水・給湯配管およびガス給湯器内部の凍結を予防できます。

1. ガス給湯器のリモコンがある場合は、運転スイッチを「切」にしてください。

リモコンがない場合には、ガス給湯器のガス栓をしっかりと閉めてください。

(次の2を行うことによりガス給湯器が燃焼する可能性があるため)



2. 給湯栓を開いて、少量の水[1分間に約 400cc(太さ約 4mm)]を流したままにしてください。

※この処置による水道代は、お客さまのご負担となりますことをご了承ください（浴槽等で受けると洗濯などに再利用でき経済的です）。



※写真は混合カランの例

1分間に約 400 cc（太さ約 4 mm）の水を流す
（給湯側を開ける）



（注意）電源コンセントは抜かないで下さい

※凍結予防ヒーターが作動しなくなります

万一凍結した場合

万一、配管が凍結した場合には、無理に溶かそうとはせず、自然に解凍するまでお待ちいただくことをおすすめします。また、水が出るようになっても、ガス給湯器本体や給水・給湯配管から水が漏れていないかなどを確認して、ご使用ください。

未入居の住居または長期間ご使用になられない場合

未入居の住居や、ガス給湯器を長期間ご使用になられず電源をお切りになられている場合には、給湯器内部の凍結防止のため、本体の水抜きが必要となります。詳しくは、取扱説明書をお読みいただくか、[ガスをご契約の販売店](#)にお問い合わせください。